

第2次 三面地域まちづくり計画



令和4年4月

三面地域まちづくり協議会

はじめに

平成20年4月に、村上市、荒川町、神林村、朝日村、山北町の5つの市町村が合併し新村上市が誕生しました。市町村合併からこれまで進めてきた総合計画も、令和4年度から第3次総合計画となり、市の目指す将来像を「あふれる笑顔のまち村上」と位置付けました。また、将来像を実現するための基本目標の一つとして「多様性が広がるまち」と掲げ、『市民協働のまちづくり』が重要視されてきます。



これまで村上市の各地域では、自治会（集落）、公民館、老人会、婦人会、PTA、防災組織、福祉ボランティア、趣味のサークルなどがさまざまな活動をしてきました。しかし、急速な社会の変化と過疎化、少子高齢化が進む中、市民のニーズは多種多様化し複雑な地域課題が増えてきました。



こうした課題を解決するため、昭和の大合併前の旧村単位となる5つの地域で、まちづくり協議会を組織することになり、「三面地域まちづくり協議会」として活動してきました。地域の個性を生かし、住民が「ここに住みたい」「住んで良かった」と実感できるように、これまでの取り組みを活かした「第2次三面地域まちづくり計画」を策定いたしました。

1 地域の特徴、課題

三面地域は、雄大な朝日連峰を源とする三面川が中央を流れ、その川沿いに岩崩、荃太、千縄、新屋、中新保、堀野、石住、上中島、布部、猿田の10集落が点在し、1,064人、356世帯が暮らしています。（令和4年3月1日現在：住民基本台帳）



また朝日スーパーライン、三面ダム、奥三面ダム、二子島森林公園、縄文の里朝日、布部やな場など自然や歴史文化を利用した観光施設に恵まれており、地域を訪れる人は多く、夏には鮎釣りの人々などで賑わいを見せています。

しかし、昭和30年に3,599人だった人口も、社会情勢の変化や奥三面ダム建設に伴う集団移転等により、今では当時の3分の1にも満たず、少子高齢化が進行し、後継者不足により地域のコミュニティ活動や災害時の対応に支障をきたし始めていることから、新たなまちづくりを進める必要があります。

■三面地域人口推移

単位：人(数値は国勢調査より)

区分	昭和30年	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
人口	3,599	2,687	2,222	2,006	1,949	1,535	1,366	1,191	1,036
増減	-	△912	△465	△216	△57	△414	△169	△175	△155

2 地域のまちづくりの理念、将来像（目標年度：令和8年度）

三面地域まちづくりの理念を「三面の雄大な自然と伝統・風景を大切にしながら、活気と地域愛に満ちたまちをつくる。」とし、次の3つの将来像の実現を目指します。

- 一. 地域で支え合うという意識が高く、子供からお年寄りまでが安心して生き生きと暮らせるまちを目指します。
- 一. 地域行事等を通じて、住民同士の交流が盛んに行われ、お互いのつながりが強いまちを目指します。
- 一. 三面の美しい自然や風土の魅力を発信して自慢できるまちづくりを目指します

3 具体的な取組みの方向性、事業実施計画等（計画年度：令和4年度～令和8年度）

基本方針	具体的な取組みの方向性 事業実施計画	事業実施年度					備考
		4	5	6	7	8	
地域内外の積極的な交流 拡大を図り、地域住民の 相互扶助意識の向上を推 進する	① 世代を問わない住民同士の交流と、地域内外の賑わい創出を促進する	▶					
	② 地域特有の資源を用いて、地域外との積極的な交流を図る	▶					
	③ 各集落や他のまちづくり組織、小学校等との連携を推進する	▶					
地域の魅力や資源を活用し、幅広い世代の地域愛を育む	① 地域の資源を活用し、地域の魅力の再発見に取り組む	▶					
	② 地域の課題を解決すべく活動する団体を支援する	▶					
地域情報などを積極的に発信し、地域まちづくりへの関心を高める	① 広報紙やSNS等を活用し、地域情報を積極的に発信する	▶					
	② 地域の担い手確保および人材の育成を図る	▶					